

## 三好丘中学校区人権教育総合推進地域事業だより

—三好丘中・三好丘小・黒笹小—

# スクラム

三好丘中学校区人権教育推進委員会  
平成30年5月22日 No.2

### 人権教育総合推進地域事業について…

三好丘中学校区の小中学校(三好丘小学校、三好丘小学校、黒笹小学校)は、平成28年度から文部科学省より人権教育総合推進地域事業の研究指定を受けています。そこで、3校の職員は「人間関係づくり研究部」「環境づくり研究部」「学習活動研究部」の3つの研究部会に分かれ、「自分の大切さと共に他の人の大切さを認める」ことをキーワードに研究に取り組んでいます。子どもたちを取り巻く人間関係や環境、そして日々の学習について実態を見つめ、よりよい人権教育を進めていくことができるよう努めてまいります。これからもご理解、ご協力をお願いいたします。



昨年度、エントランスホールに「にこにこの木」が設置されました。模造紙を工夫して樹木のように貼り合せ、緑や黄色の上質紙を葉のようにあしらひ、その葉にはありがとうのメッセージが書き込まれています。本来はコンクリートの壁や柱なのですが、「にこにこの木」が茂ることで、エントランスホールには明るさと優しさがあふれます。全校の子どもたちが入学・進級して1ヶ月がたちました。環境づくり研究部の呼びかけで、「4月を振り返ってありがとうを伝えよう」と、「にこにこの木」が茂りました。

4月27日に、運営委員が中心となって「1年生を迎える会」が行われました。なかよし班という1年生から6年生までの縦割り班がつくられ、そのなかよし班でゲームなどに取り組みます。黒笹小学校に関するクイズや、フラフープを使ったリレーで交流を深めた後、6年生から新入生にワッペンプレゼントが贈られました。そこには「なかよくしてね」などの優しいメッセージが書かれていました。そして、そのお礼にと1年生の子たちが一生懸命にありがとうのメッセージを書き、「にこにこの木」を茂らせました。「わっぺんありがとう」「ふらふうぶたのしかったよ」など、覚えたばかりの平仮名で精一杯のありがとうが伝わってきます。これに応じて6年生も「いろんなことができるよいなってすごいね」「いつもげんきなあいさつ、ありがとうね」と、丁寧な平仮名で微笑ましいメッセージが木を茂らせています。また3,4年生からは「登下校のとき、班長さんありがとう」「部活のとき、見本を見せてくれてすごいです」といった上級生への感謝の言葉も見られます。子どもたちは、登校したときや休み時間のふとした時間に立ち止まり、笑顔で「にこにこの木」のメッセージに目を通す様子が見られます。これからも「にこにこの木」を通して、黒笹小学校にたくさんのありがとうが溢れることを楽しみにしています。

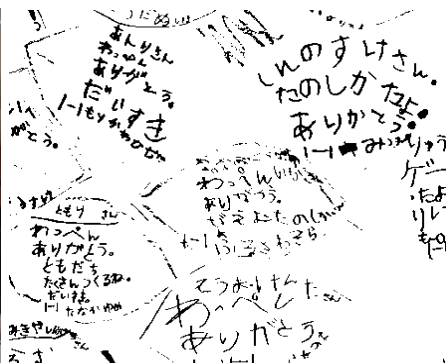
(環境づくり研究部「にこにこの木」担当 筒井 千晶)



【わー、うれしいな！  
…ワッペンをもらった1年生】



【全校のありがとうがいっぱい！  
…「にこにこの木」】



【 たのしかったよ、ありがとう！  
…「にこにこの木」より 】



### 対話を中心にした授業づくり

平成30年度の取組の一つとして、対話により、自他の良さに気付く学級づくりを行っています。

対話には、ペア対話やグループ学習などを通して、友達とかかわり合う「他者との対話」や、自分自身と向き合い、一人で考える自己内対話などがあります。まずは、自分の考えをもち、仲間と進んで話し合える人間関係づくりをめざしています。

今回は5年生の国語科「一つの言葉から」の学習で、対話を中心にして課題にせまる授業を行いました。個人で詩を完成させて、その後ペアやグループになって仲間の詩の良さを味わい、学び合う姿が見られました。後日、子どもたちの日記には、「自分と同じ題名の詩を作っていたけど、全然違う詩ができていて、みんな考え方や感じ方が違うんだと思いました」、「友達の詩は、言葉をくり返して使っているところがおもしろくて、自分の詩でも使えそうだなと思いました」という感想が書かれていました。

今後も対話を取り入れながら、一人一人の学びを保障し、子どもたちが自他の良さに気付くことができる授業づくりを行っていこうと思います。  
(5年3組担任 田中 鉄成)



【 グループで詩を紹介し合う様子 】



【 ペアでお互いの詩を読み合う様子 】



### 一人一人の学びの保障をめざして

三好丘中学校は全員の学びを保障する授業を目指しています。5月10日(木)4時間目に2年1組で授業研修を行いました。江戸時代に商人の生活が武士の生活水準に追いついたのはなぜだろうということを考えました。机の隊形をコの字型にして、互いに顔を見ながら話し合いができるように教室が整えられていました。

生徒は、「交通網の整備が関わっていると思うよ」、「農具が発達して、農作物が大量に生産できるようになったことっていうのもあるね」と、様々な視点から意見を出し合いながら、考えを深めていました。グループ学習の時間には、なぜそう言えるのか根拠を探そうと、生徒の意見がまとめられた黒板を見ながら話し合いをしているグループがありました。一人一人の目は真剣そのものです。「それ、どういうこと?」と疑問に思うことを質問する生徒もいました。

多くの先生に囲まれたいつもと違う雰囲気の中でも、自分の意見を伝え、仲間の意見を聴き、学びを深める2年1組の生徒は本当に立派でした。生徒一人一人から学ぼうとする心を感じました。

生徒の分からなさから授業を深めていく。教師が知識を一方向的に話すのではなく、生徒の内にある「なぜ?」を大切に、生徒同士の関わりの中で学びが深まっていくことで、新たな気づきや発見がでてきます。誰一人も見捨てない、全員の学びが保障された授業ができるよう、教員一同研修を積んで参ります。

(研究主任 林勝也)



【 グループ学習の様子 】



【 友達の意見を聴き、考えを深めようとしている様子 】